

山口大学医学部附属病院リハビリテーション部

坂井孝司 先生

山口大学医学部附属病院リハビリテーション部教授

山口大学医学部附属病院リハビリテーション部の特色について

「最大の特徴は、『多職種連携によるチーム医療』と『高度急性期から多様なリハビリテーション診療対応が可能な体制』です。各診療科と密に連携し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・患者支援センターなどと合同カンファレンスを行い、患者さん一人ひとりの問題点や目標を明確化します。セラピストも積極的にカンファレンスに参加し、多職種でリハビリテーション診療の方向性を共有する文化が根付いています。当院は大学病院として、脳血管疾患や神経難病、運動器疾患はもちろん、心大血管疾患、呼吸器疾患、がんなど、非常に幅広い疾患に対応しています。近年特に力を入れているのは、心臓疾患のリハビリテーション診療、呼吸器疾患のリハビリテーション診療、がんのリハビリテーション診療です。どの分野でも、早期離床・早期回復を意識したプログラムを開発しています。また、先進高度救命救急センターや集中治療室（ICU）への専任セラピストの配置を行っており、発症早期や手術直後といった急性期におけるベッドサイドから開始するリハビリテーション治療を積極的に導入しています。これは、早期からの治療開始が予後改善につながるというエビデンスに基づいたもので、当院の高度急性期医療の一環です。」

リハビリテーション部で学ぶ魅力について

「当院は症例の多様性と重症度の高さ、そしてチーム医療の実践環境が整っており、リハビリテーション医療の最前線を学べる場です。また、先端機器や多彩なリハビリテーション治療技術に触れられることも大きな魅力です。臨床力・判断力・コミュニケーション力を総合的に養える環境であると自負しています。」



坂井孝司 先生

山口大学医学部附属病院 リハビリテーション部

病床数：955床、スタッフ構成：医師3名、理学療法士23名、作業療法士10名、言語聴覚士4名、看護師1名
〒755-0046 山口県宇部市南小串1丁目1-1

ここで専門医を目指す医師の特色について

「新卒でそのままリハビリテーション部に入局する医師は少数派です。整形外科や脳神経内科、脳神経外科など他科の専門医資格を取得後にセカンドキャリアとして当部に入ってくる医師が多いのが実情です。いわゆる『ダブルボード』の取得を目指す形ですね。」

現在、3名の医師がそのコースで研修しており、全員が整形外科専門医資格を持っています。最低6ヵ月の回復期リハビリテーション病棟研修を含めて、最短2年で専門医認定試験の受験資格を得られるようプログラムを設計しています。」



山口大学医学部附属病院リハビリテーション部の皆さん

ライフイベントを考慮した働き方にも対応しますか？

「育児や介護などのライフイベントに直面している先生方でも、柔軟にキャリア設計できるように配慮しています。たとえば現在、外科専門医の資格を持つ女性医師が、回復期リハビリテーション病院に勤務しながら専門医の資格取得を目指して大学でも学べるような体制を整えています。このように、働きながら専門医の資格取得を目指せる『兼務・連携型』の研修体制を整えています。」

リハビリテーション科医ならではのやりがいは？

「患者さんと長く関わることができる点が、最大の魅力だと感じています。歩けなかった人が歩けるようになる、動かせなかった手が動くようになる、そういう『変化に立ち会える医療』が、リハビリテーション医療の醍醐味です。実際、私自身も前任地で20年以上診ていた股関節障害の患者さんとお別れする時は辛かったですね。患者さんからも大きなエネルギーをいただきました。」

研究活動にも力を入れていますか？

「はい、特に股関節や脊椎疾患の治療、電気刺激療法などの運動器疾患のリハビリテーション医学関連の研究には力を入れています。ウェアラブルデバイスを用いた術後の機能回復の予後予測やシミュレーションも導入し、患者さんに『どんな動きができるのか』をわかりやすく提示できるようにしています。また、fMRIや生体電気インピーダンス法（BIA）



歩行訓練（患者様から掲載のご許可は頂いております）

による骨格筋の質や量の評価、痛み刺激に関する研究も行っています。スタッフも研究に積極的で、最近は卒業前の学生の論文が『Scientific Reports』という著名な国際誌に掲載された例もあります。」

専門医の資格取得へのサポート体制について

「当部には日本リハビリテーション医学会の指導医が複数在籍しており、専門医の資格取得に必要な研修症例・教育評価・指導体制が整っています。評価は単なる点数ではなく、丁寧なフィードバックを通じて成長を促す方針で行っています。山口県には下関や萩など、歴史好きにはたまらない街が多くあり、海の幸も豊富で、食も観光も充実しています。交通インフラも整っていて、宇部空港から羽田までの直行便が多く、夕方に出発しても、東京ドームで開催される夜のイベントに十分間に合う交通アクセスです。そうした『オフの充実』も、働く上で大切な要素だと思っています。『人に寄り添いたい』『変化に関わることができる医療がしたい』『多職種と連携しながら成長したい』という志を持った方に、ぜひ参加していただきたいです。専門性と人間力の両方を育てることができる環境を整えていますので、一緒にリハビリテーション医療を進化させてていきましょう。」

（文責 広報委員会）